

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1490200068
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	みんなの家 横浜羽沢3
訪問調査日	平成21年4月7日
評価確定日	平成21年4月30日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 4月 16日

【評価実施概要】

事業所番号	第1490200068号
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	みんなの家 横浜羽沢3
所在地	神奈川県横浜市神奈川区羽沢町990 - 7 (電話) 045 - 370 - 1210

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1 - 2 - 4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年4月7日	評価確定日	平成21年4月30日

【情報提供票より】(平成 21年 3月 7日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 5月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	18人	常勤 7人	非常勤 11人	常勤換算 12.8人

(2) 建物概要

建物構造	(軽量鉄骨)造り
	2階建ての (1)階 ~ (2)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	120,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	370 円	昼食	490 円
	夕食	490 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (3月7日 現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 77 歳	最低	60 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	港北メディカルクリニック・中川歯科診療所・菊名記念病院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは、横浜駅からバスで20分ほど場所にあります。利便性の良さもあり、法人内グループホームの中でも入居希望や問い合わせが多い施設です。ホーム理念にうたわれている「その人らしく」を実践するため、法人の充実した介護のノウハウを生かしながら、利用者一人ひとりの入居前からの生活ペースを出来る限り守っていくための支援を心がけています。また、利用者との日々の関わりの中から隠れた一面を発見し、利用者の新しい趣味、楽しみごとが加わった事例があります。ホーム周辺は緑が多く、果物狩りや芋掘りなど地域の恵まれた環境を上手に取り入れた行事も企画されています。職員が介護のプロとしての自覚を持ち、生き活きたしたホームを目指し日々取り組んでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年は運営推進会議開催が1回に留まっていた。近隣の法人内3つのグループホーム合同での運営推進会議開催のため、スケジュール調整のむずかしさは変わりませんが、開催回数も増えており、少しずつ軌道に乗り始めています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>スタッフ会議時、サービス評価の理解をテーマに勉強会を開きました。自己評価は管理者が代表で作成し、その後職員に回覧し意見を求め加筆修正を行いました。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年同様、近隣の法人内3つのグループホーム合同で開催されています。スケジュール調整のむずかしさは変わりませんが開催回数も増えており、少しずつ軌道に乗り始めています。活動報告の他、認知症介護の理解や地域交流の深め方などが話し合われています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月「一言通信」を作成し、利用者の健康状態、ホームでの様子や金銭管理について報告しています。必要に応じ電話での連絡も行っています。家族の面会が多いので、管理者、職員が直接様子を伝え、話し合う場面が多々あります。職員は家族とも密にコミュニケーションを図ることを心がけており、意見や不安なことなどが言い易い雰囲気作りを力を入れています。法人の方針で今年度から2ヶ月に1度、家族会の開催が予定されています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会を通じた地域交流が行われています。小学校で開かれている福祉まつりや地域のさくらまつりなどへの参加は利用者の楽しみの一つになっています。隣接している同法人グループホームの管理者が自治会の役員をしており、さまざまな情報が得られます。地元中学校の体験学習も積極的に受け入れています。認知症への理解を深めるための話や利用者との交流が行われています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に職員全員で考えた理念「地域と共に、その人らしく、笑顔で安心して生活できるホーム」を継続して掲げています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、新しい職員へのオリエンテーション時に必ず理念について話しています。理念が日々のケアの判断の基準になることをスタッフ会議時にも話し合い、確認しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会を通じた地域交流が行われています。小学校で開かれている福祉まつりや地域のさくらまつりなどへの参加は利用者の楽しみの一つになっています。隣接している同法人グループホームの管理者が自治会の役員をしており、さまざまな情報が得られます。地元中学校の体験学習も積極的に受け入れています。認知症への理解を深めるための話や利用者との交流が行われています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ会議時、サービス評価の理解をテーマに勉強会を開きました。自己評価は管理者が代表で作成しその後職員に回覧し意見を求め、加筆修正を行いました。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年同様近隣の法人内3つのグループホーム合同で開催されています。スケジュール調整のむずかしさは変わりませんが、開催回数も増え、少しずつ軌道に乗り始めています。活動報告の他、認知症介護の理解や地域交流の深め方など話し合われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の介護保険関連の申請、更新手続きなどを通じて情報交換しながら区担当者と連携しています。また、利用者と関係のある担当ケースワーカーとも連絡を取り合っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「一言通信」を作成し、利用者の健康状態、ホームでの様子や金銭管理について報告しています。必要に応じ電話での連絡も行っています。家族の面会が多いので管理者、職員が直接様子を伝え、話し合う機会が多々あります。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	開設から2年経ちますが、苦情を寄せられたことはありません。職員は家族とも密にコミュニケーションを図ることを心がけており、意見や不安なことなどが言いやすい雰囲気作りに力を入れています。法人の方針で今年度から2ヶ月に1度家族会の開催が予定されています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット毎にスタッフを固定し、馴染みの関係が作れるよう努めています。職員の離職時は利用者への影響を考え、敢えて辞めることは伝えていません。この1年間で数名の職員の交代がありましたが、利用者への大きなダメージはありませんでした。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の仕事に対する意識が高く、レベルアップ、スキルアップに取り組んでいます。法人及び事業所としての支援体制も整えられています。年2回職員の人事考課を行い、自己目標の達成度や反省点など評価し、モチベーションの維持・高揚を促しています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のエリア会議などを通じて毎月交流や勉強会の機会を持っています。今後は横浜市のグループホーム連絡会の集まりなどに積極的に参加し、他ホームとの交流や情報交換を行い、サービス向上につなげていきたいと考えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に管理者が本人、家族を訪れ話し合いの時間を持ち、関係作りを行っています。入居後初めのうちは管理者が中心になり利用者のフォローを行っています。家族にも協力や相談を密にされるようお願いしています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホームでの生活の主人公は利用者本人であることを職員は常に確認しあっています。本人の要望や助言を職員が共感、共有できるよう努めています。昼食後の後片付けの場面で利用者職員が楽しげにおしゃべりしながら食器を洗い、食器を拭き、棚にしまう様子が見られました。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、利用者との日々の関わりの中から気付き、発見することを大切にしています。言葉だけでなく動作や表情から読み取れる思いや意向の把握に努めています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成には、利用者本人、家族、関係者の意見を尊重しています。職員は、モニタリング、会議、毎日の申し送りなどで情報を収集、共有し、一人ひとりに適した介護計画を作成するよう努力しています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直し、変更は6ヶ月ごとに行っています。利用者の生活記録を参考にし、計画表に基づき3ヶ月に一回カンファレンスを行っています。入院などで状況に変化が生じた場合は、その都度介護計画を見直し、変更しています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	非常勤看護師を配置し、様々な相談やアドバイスを受けています。内科医、歯科医の医療機関および薬局と居宅療養管理指導を締結し、介護と医療の連携が取れるようになっていきます。薬剤師から薬に関するアドバイスを受けています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後まもなくは、従来のかかりつけ医に受診していましたが、ホームでの生活に慣れるにつれて現在は全員が提携医に変わっています。要望があれば、かかりつけ医に受診することが可能です。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応に関わる指針について、家族には入居時に説明をしています。関係機関の協力を得ながら利用者、家族の思いを可能な限り尊重した対応が行えるよう体制を整えています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような不適切な接遇や記録などに気付いた場合には、日常的な注意の呼びかけや会議で確認、対応しています。個人記録などの書類は鍵の掛かるロッカーに保管しています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の意向を一番大切に、自己決定を尊重することを会議などで確認しあっています。利用者一人ひとりのその日の体調、天候に配慮した支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2階ユニットでは、混乱防止のため当番制を取り入れています。順番を決めて食事の準備、後片付けを職員と共に行っています。行事食のときには、利用者のリクエストに応えるため、職員と一緒に献立を考えたり、外食に行くなどの要望にも対応しています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜勤以外の時間帯で、利用者の希望に沿った入浴を支援しています。入浴が苦手な方にも対応を工夫し最低でも週2回の支援を行っています。1階フロアーには、職員があらゆる角度から介助できる位置に浴槽を配置し、リフトも設置してあります。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの経験や特技を活かした支援を心がけています。日常生活で使っている、居室入り口ののれんや小物入れは利用者の作品を利用しています。月ごとの手作りカレンダーは利用者職員が合同で製作しています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には毎日散歩しています。コンビニなどでの買い物、お花見、果物狩りなどの行事を企画実行しています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全および防犯上から玄関はオートロックにしています。利用者は1階と2階の行き来、ベランダへの出入りは自由に行われており、利用者の生活に制限を加えないような配慮をしています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路を掲示し、防災訓練を年に2回行っていきます。夜間に災害が発生したとの想定で少ない職員で、避難誘導訓練を実施しています。建物外に自動販売機が設置されました。飲料メーカーと地震などの災害時には、飲み物のペットボトルや缶が自由に取り出せるような契約が結ばれています。		職員が少ない夜間を想定した訓練は行われていますが、利用者のADL(日常生活動作)の低下や混乱を踏まえた避難誘導方法の工夫、消防署、地域の連携協力体制、備蓄の確保など当ホームの災害対策の現状を再点検・確認し、改善につなげていくことも期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が栄養バランスやカロリーを考慮した献立を作成しており、利用者の状況に合わせ刻み食なども提供しています。一人ひとりの食事はバイタル・服薬チェック表に記録しています。状況によっては水分摂取量を記録し、様子を観察することもあります。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室および共用の空間は、空調、加湿、採光など快適に保たれています。玄関やリビング、ベランダには観葉植物や季節の花々や人形などで飾られ季節感を演出しています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調、ベッド、チェストは備え付けですが、それ以外のテレビ、ソファ、家族の写真、仏壇、家族用テーブル、イスなどは馴染みの品物を持ち込み居心地の良い居室を作っています。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム みんなの家 横浜羽沢3
(ユニット名)	1U
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市神奈川区羽沢町990-7
記入者名 (管理者)	八十島 正起
記入日	平成 21 年 3 月 7 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を掲げています。 理念：『地域と共に、その人らしく、笑顔で安心して生活できるホーム』のもと、地域のボランティアの方に訪問して頂いたり、近くのスーパーに買物に行ったり、芋掘り、ぶどう狩りに参加しています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフやご家族様に見やすい場所に掲示しています。スタッフ会議、カンファレンスなどの機会に話し合うことで周知に努めています。アセスメントやケアプランを通して職員間の情報を共有しています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホーム内の見やすい位置に掲示し、ご家族や来客者に対してアピールしています。また家族会や運営推進会議の場を通して、理念について説明し、理解してもらえるよう取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な挨拶・交流の他、運営推進会議の際に参加を呼びかけ、ホーム内の様子や運営状況についても説明しています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内自治会に参加し地域交流に参加しています。地元中学の体験学習を受け入れや、地域イベントにも積極的に参加しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地元中学の体験学習を受け入れ、認知症についての勉強会を行っています。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の目的の理解をテーマに勉強会を開いています。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>概ね2ヶ月に1度のペースで運営推進会議を開催しています。委員の方と認知症介護や、地域交流の方法などについて話し合いをしています。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護保険・生活保護の担当者との交流を行い、利用者様の個別ケースについて相談しています。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>会社の研修を通して権利擁護に関する制度について学ぶ機会があります。まだ実際に支援に活用したケースはありません。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>新入社員研修・マニュアル配布など職員会議、カンファレンスを利用して虐待について話し合い、防止徹底に努めています。虐待、拘束についての弊害を理解し防止に努めています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分に説明し、納得して頂けるよう努めています。質問・疑問についても不安のないように対応しています。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご利用者様本人からの苦情については、日常のコミュニケーションから意見・不満について伺っています。また苦情窓口を設置し、連絡先についても掲示しています。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月『一言通信』というお手紙を作成し、健康状態・ホームでの様子について報告しています。必要時は面会時に直接お伝えしたり、電話連絡を行っています。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご意見、ご提案ポストを設置し意見、不満、苦情を運営に反映させています。また面会時や電話連絡時にもご家族の意見、不満、苦情、を聞き出せる様な人間関係作りを力を入れています。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月スタッフ会議を行い、スタッフとの意見交換の場を設け運営に反映している。個別に相談を受けた際も職員全体で考え事業所の運営方向を決めています。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	勤務時間も調整し利用者状況の変化、要望に対応出来る様に努めています。職員同士の話し合いで勤務時間を調整して利用者状況の変化、要望に対応出来る様に努めています。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	ユニットごとにスタッフを分け、スタッフとご利用者様の間に信頼関係ができるよう努めています。やむを得ず離職がある際も、ご利用者様の精神的に影響がないよう配慮しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験数、役割、知識に合わせた研修を実施、また要望に合わせた研修も行っています。状況を見ながらその場で技術指導、介護従事者としての心構えを指導しています。年2回職員の評価を行っています。その際に自己目標の達成度や反省点などを含め、次期目標の設定を行いモチベーションの維持を促しています。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のエリア会議などを通じて毎月交流や勉強会の機会があり、サービスの適正化・向上に努めています。	グループホーム連絡会に参加し、他法人との交流の機会を持ち、サービス向上に活用していきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	コミュニケーションを取り合って職員同士で働きやすいホーム作りに取り組んでいます。休憩スペースを作り、休憩時間にリラクセスできるような環境を作っています。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に2回、人事考課を行い、役職、給与に反映させています。その際、次期目標の設定を行いモチベーションの維持を促しています。また職員の意見や提案を直接運営者に届く意見箱を設置しています。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に本人、ご家族からヒアリングする機会があります。必要に応じて、ご家族とご本人を別々にヒアリングするなどして本当に心配に感じていることや、困っていることを伺う事が出来るように努めています。その際の情報を職員全体で話し合い、共有して、入居に対し不安・心配事を少なくして頂くよう努めています。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	連絡を細やかに取り、ご家族の心境、不安、本人の回りの環境などを聞き取りしています。入居時も不安な点がないようしっかりと説明するよう努めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームにこだわることなく、本人にとって最もいいサービス利用を提案できるよう努めています。必要時は担当CMと連絡を取り、本人やご家族にとって必要な支援サービスについて話し合っています。ご家族、本人とも話し合う機会を作っています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人、ご家族を訪れ話し合ったり、見学時に他利用者と接して頂いたりしながら、入居する前から顔見知りの関係を作れるように工夫しています。サービス開始当初はホームに慣れていただくために、スタッフがフォローしたり、ご家族に連携を依頼するなどしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の主人公は本人であることは、理念作りやスタッフ会議を通してスタッフ同士で確認しあっています。職員も利用者の生活と同じ環境で食事をしたり買い物に行ったり喜怒哀楽を共有しています。職員会議を利用し、本人の要望や助言を運営に反映させ、職員と利用者が同じ目的が持てるように努めています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	電話、手紙、報告書などの形で連絡を取り合いながら信頼関係を築いています。「本人の為」という共通の目的をもって、どういった支援が必要なのかを一緒に考えています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前から情報収集に努め、入居後もご家族と細やかに連携をとっています。本人の気持ちを代弁しご家族に伝える事もあります。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実際に馴染みの人に会ったり、馴染みの場所に行くことは難しい場合がほとんどですが、可能な限り電話や手紙のやり取りが出来るような支援をしています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	身体状況や認知症状を含めて利用者同士が関わり、支えあい、助け合っている環境です。助け合える環境を作る為に、職員が声掛けをしたり、空間環境を整備するなどしてまいります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現状では契約終了後も関係性を継続しているご家族の方はいらっしゃいませんが、ご要望があれば積極的に対応していきたいです。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉だけでなく、行動や感情で表現する意向、過去の経緯から知る意向等を情報として集めカンファレンス、会議、申し送りで検討しています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に実態調査を行っています。聞き取りがすぐできない家庭は、入居後信頼関係を作り、情報収集しています。必要時は、ご家族に了承を得て関係機関に連絡して過去の経緯を確認しています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	安全管理しながら自由に生活して頂きその中で本人の状態把握に努めています。生活記録やバイタルチェック表を利用し情報を共有しています。カンファレンス、会議、申し送り等で日勤帯、夜勤帯の様子の情報を集めて状態把握に努めています。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活を快適にする為必要な事項を職員、本人、ご家族、関係機関を含めて検討し介護計画を作成しています。カンファレンスを3ヶ月に一回実施し、アセスメントを通してそれぞれのご利用者様に合ったケアプラン作りに取り組んでいます。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンス、会議、申し送りで情報を共有し状況把握に努めています。必要な時は個別に職員から情報取りをしています。記録の中から新しい情報を介護計画に反映させていきます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録は、様子がわかるものをより具体的に記入し、日々の新しい情報として介護計画の見直しに生かしています。心理面では、生活全般の情報や状況を参考にしてカンファレンス等で検討しながら介護計画に反映させています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	非常勤の看護師を配置し介護と医療の連携が取れるように努めています。医療機関(内科、歯科)、薬局、と居宅療養管理指導を結び安心して生活できる様に努めています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア、教育機関の理解を頂き、認知症の理解を地域に向け情報発信している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近隣の他事業者や他介護サービス事業所と情報交換しながら本人にとって最良のサービスを利用して頂けるよう支援しています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	区の介護保険・生活保護の担当者との交流を行い、利用者様の個別ケースについて相談しています。地域包括センターへは、運営推進会議内で報告、相談を行っています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の了承を得て、主治医とは別に個別の医療機関が定期的に往診しています。主治医と連携しながら適切な支援に取り組んでいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	24時間対応ダイヤルが設置してあるのでDrからいつでも相談、指導、助言できる体制になっています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員による健康管理をしています。開所から見ていただいているので、ご利用者様や職員との信頼性も深く様々な相談ができる関係となっています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	支援状況を担当関係者やご家族と話し合い本人の不安を和らげ早期に退院できるように努めています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族に重度化した場合の対応を入居時に説明しています。本人、ご家族の意思を尊重し、関係機関の協力を得ながら話し合い、選択してもらえる環境作りをしています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・ご家族の意思を尊重し、関係機関等の協力を得ながら話し合っています。できる事とできない事を提示しながら、最終的な選択をして頂けるような体制作りをしています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係機関担当者で話し合い、本人の不安を和らげより良い支援を受けられる様に情報提供しています。必要時は関係機関担当者、本人、ご家族、事業所職員で事業所内で支援の方向性について話し合っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>適切な接遇、記録をする上で配慮していかなければならない事項について日頃より注意し合っています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>言葉だけではなく行動や感情も本人の意思表示と考え、ご利用者様の自己決定を尊重することについてはスタッフ会議などで確認しあっています。様々な場面で納得していただけるまで何度でも説明するよう努めています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の意向を最大限に尊重する事が最優先業務とし、自己決定を尊重することについてはスタッフ会議などで確認しあっている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>不適切な身だしなみになってはいないか、注意してご利用者様を見守りしています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備・片付けはご利用者様に役割を持って頂くいい機会となるので、積極的にご参加して頂いています。またイベント時などにご利用者のリクエストに応えていけるようなメニューを一緒に作ったり、外食に行ったりするなどして要望に対応しています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>入居以前の趣味・嗜好を継続して頂けるような支援をしていきたいと考えています。健康管理上に制限が無い場合は、かかりつけ医と相談しながら出来るだけ継続して頂いています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、それぞれのご利用者さまの排泄パターンの把握に努めています。排泄パターンをもとにトイレ誘導・声掛けするなどして、排泄の失敗を防ぐことができるよう支援しています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜勤帯の勤務時間は安全の面から入浴援助が出来ませんが、その時間帯以外はできるだけ本人の希望に添えるよう可能な限り勤務時間の調整をしています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣や現状に合わせ、家族や関係者と話し合い検討し総合的に判断しています。可能な限り本人の生活習慣や意向を優先しています。他利用者に影響が見られる場合でも職員の対応や環境を作ることで影響が出ない様に配慮しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ひとりひとりに役割を持って頂けるよう支援しています。ご自分からの意思表示が難しい方についてもご家族、関係機関、入居前のサービス事業所等から情報収集して職員側から提案していけるよう援助しています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお小遣いはお預かりして管理していますが、要望に応じてご自分である程度お金の管理をお任せしているご利用者様もいらっしゃいます。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日お散歩へ行って頂けるよう支援しています。買物や外出行事を企画して機会を作っています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別の外出や外泊はご家族に説明して外出や外泊する機会を作ってもらえる様に支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自らかけて頂けるよう支援しています。手紙についても希望に添えるよう援助しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族・知人の訪問にはいつでも居心地良く過ごしていただけるような雰囲気作りをしています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	意識的に身体拘束をしない事、無意識でも身体拘束にみなされる行為や環境を作らない事を職員全体で意識し取り組んでいます。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上必要と思われる施錠をしている扉もありますが、ご利用者の希望があればいつでも開けるように支援しています。施錠することで生活空間が制限される事を理解し、会議等で情報の共有をしています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーに配慮しながら安全確認しています。職員の人数が限られている時は、全体が把握できる位置で利用者の行動を予測し安全管理に努めています。行動予測が出来る様にカンファレンス、会議で情報を共有しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険性のあるものだからといってすぐに管理・保管するのではなく、自立度に応じて対応しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を作成し、事故分析を行っています。社内にも安全対策委員会が設置しており、他事業所における事故や勉強会が行われているので参加しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを作成・掲示しており、医療従事者と24時間体制で連携がとれる体制を作っています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難経路を掲示し、防災訓練を年に2回実施しています。		地域に協力を得られるよう働きかけたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	予測されるリスクについては毎月のお手紙や電話または面会に来られた際などに説明しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の口頭での申し送り、記録での確認、報告連絡相談、を毎日徹底し、職員間の情報共有、関係機関への情報伝達、異変時等の対応が迅速に行える様に努めています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医、薬剤師と連携しながら薬の目的・用法について理解に勤めます。個別の一覧表があり確認できる体制を作っています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や運動する機会を作る支援をしています。必要に応じてかかりつけ医に相談しながら服薬の面からも支援しています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアの援助をしています。また週に一回歯科衛生士による訪問診療があります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養価はメニュー表で把握しています。食事形態、食事量、水分量の把握も出来ています。状態や習慣も含め必要時は食事量、水分量をご家族、協力医療機関等に報告し話し合い評価、検討しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する研修が入社時に行われています。外出から戻られたときは手洗い・うがいを励行しています。流行の感染症に対し必要時は関係機関に相談したり行政からの予防指導等を実践しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生マニュアルがありマニュアルに沿って対応しています。食材の管理についても関係機関と共同し保管管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場からも生活環境が見えるように中庭に椅子を設置しています。玄関周りの清掃を定期的に行っており、夜間時も出入りがしやすい様にセンサー付の外灯を設置しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り付けは、季節感に合った飾り付けや季節の草花の飾りをしています。外気温との差が極端に大きくならない空調になるよう配慮しています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置を工夫して、気のあったご利用者様同士と一緒に過ごせるように配慮しています。またお一人で過ごせるような空間もありますので、思い思いの過ごし方が出来るようになっていきます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族や本人と相談して、使い慣れた家具や好みの家具を使用したり、本人の好みの居室を提供しています。どの居室に入居するかを生活習慣に合わせご家族や本人と相談しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室の換気は定期的に行っています。個人の感覚も尊重しますが、あまりご本人任せにせずに適正と思われる温度調節をしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活しやすい様な動線になるよう工夫しています。プライベートな空間にはコールボタンを設置しています。必要時には使用出来る様に予備用の車椅子を準備しています。本人と相談し個別に居室の家具の配置を変えるなど安全に生活しやすい環境作りに努めています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	それぞれの居室の位置をわかりやすくするためにのれんや飾りつけなどの工夫をしています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りは主に草花のお世話が好きなご利用者のために花壇づくりのスペースとして活用しています。また洗濯物や布団を干したり自由に行える環境作りをしています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

出来る限りホームに入居されるまでの生活を継続して頂けるようご利用者様本人や、御家族様からの要望にも耳を傾け、スタッフ一丸となって日夜頑張っております。タバコやビールといった嗜好品もかかりつけ医と相談しながら継続していただいております。裁縫などの趣味も出来るだけ継続して頂けるよう支援しております。ユニットごとにご利用者様の希望に沿ったイベント作りに取り組んでいます。足腰が丈夫な方の多いユニットでは果物狩り、さつまいも掘りなどの外での行事に力を入れています。ホームの周辺はとても緑が多く、周辺に広がる資源を活かしてイベントを企画しています。お誕生日会や外出、一緒に料理をするイベントなど豊かな生活を送って頂けるように様々なイベントを提案しています。また歩行運動や体操といったADLを維持するためのレクリエーションにも力を入れて取り組んでおります。活き活きとしたホームにするためにはやはり働くスタッフが元気にやりがいを持って介護に取り組んでいけるホームであることが欠かせないと思います。コミュニケーションを大切にして介護のプロとしてやりがいを持って楽しく働いていけるようなホーム作りを目指し頑張っております。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム みんなの家 横浜羽沢3
(ユニット名)	2U
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市神奈川区羽沢町990-7
記入者名 (管理者)	八十島 正起
記入日	平成 21 年 3 月 7 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を掲げています。 理念：『地域と共に、その人らしく、笑顔で安心して生活できるホーム』のもと、地域のボランティアの方に訪問して頂いたり、近くのスーパーに買物に行ったり、芋掘り、ぶどう狩りに参加しています。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフやご家族様に見やすい場所に掲示しています。スタッフ会議、カンファレンスなどの機会に話し合うことで周知に努めています。アセスメントやケアプランを通して職員間の情報を共有しています。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム内の見やすい位置に掲示し、ご家族や来客者に対してアピールしています。また家族会や運営推進会議の場を通して、理念について説明し、理解してもらえよう取り組んでいます。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な挨拶・交流の他、運営推進会議の際に参加を呼びかけ、ホーム内の様子や運営状況についても説明しています。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内自治会に参加し地域交流に参加しています。地元中学の体験学習を受け入れや、地域イベントにも積極的に参加しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地元中学の体験学習を受け入れ、認知症についての勉強会を行っています。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の目的の理解をテーマに勉強会を開いています。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>概ね2ヶ月に1度のペースで運営推進会議を開催しています。委員の方と認知症介護や、地域交流の方法などについて話し合いをしています。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護保険・生活保護の担当者との交流を行い、利用者様の個別ケースについて相談しています。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>会社の研修を通して権利擁護に関する制度について学ぶ機会があります。まだ実際に支援に活用したケースはありません。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>新入社員研修・マニュアル配布など職員会議、カンファレンスを利用して虐待について話し合い、防止徹底に努めています。虐待、拘束についての弊害を理解し防止に努めています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分に説明し、納得して頂けるよう努めています。質問・疑問についても不安のないように対応しています。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご利用者様本人からの苦情については、日常のコミュニケーションから意見・不満について伺っています。また苦情窓口を設置し、連絡先についても掲示しています。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月『一言通信』というお手紙を作成し、健康状態・ホームでの様子について報告しています。必要時は面会時に直接お伝えしたり、電話連絡を行っています。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご意見、ご提案ポストを設置し意見、不満、苦情を運営に反映させています。また面会時や電話連絡時にもご家族の意見、不満、苦情、を聞き出せる様な人間関係作りに力を入れています。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月スタッフ会議を行い、スタッフとの意見交換の場を設け運営に反映している。個別に相談を受けた際も職員全体で考え事業所の運営方向を決めています。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	勤務時間も調整し利用者状況の変化、要望に対応出来る様に努めています。職員同士の話し合いで勤務時間を調整して利用者状況の変化、要望に対応出来る様に努めています。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	ユニットごとにスタッフを分け、スタッフとご利用者様の間に信頼関係ができるよう努めています。やむを得ず離職がある際も、ご利用者様の精神的に影響がないよう配慮しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験数、役割、知識に合わせた研修を実施、また要望に合わせた研修も行っています。状況を見ながらその場で技術指導、介護従事者としての心構えを指導しています。年2回職員の評価を行っています。その際に自己目標の達成度や反省点などを含め、次期目標の設定を行いモチベーションの維持を促しています。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のエリア会議などを通じて毎月交流や勉強会の機会があり、サービスの適正化・向上に努めています。	グループホーム連絡会に参加し、他法人との交流の機会を持ち、サービス向上に活用していきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	コミュニケーションを取り合って職員同士で働きやすいホーム作りに取り組んでいます。休憩スペースを作り、休憩時間にリラクセスできるような環境を作っています。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に2回、人事考課を行い、役職、給与に反映させています。その際、次期目標の設定を行いモチベーションの維持を促しています。また職員の意見や提案を直接運営者に届く意見箱を設置しています。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に本人、ご家族からヒアリングする機会があります。必要に応じて、ご家族とご本人を別々にヒアリングするなどして本当に心配に感じていることや、困っていることを伺う事が出来るように努めています。その際の情報を職員全体で話し合い、共有して、入居に対し不安・心配事を少なくして頂くよう努めています。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	連絡を細やかに取り、ご家族の心境、不安、本人の回りの環境などを聞き取りしています。入居時も不安な点がないようしっかりと説明するよう努めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームにこだわることなく、本人にとって最もいいサービス利用を提案できるよう努めています。必要時は担当CMと連絡を取り、本人やご家族にとって必要な支援サービスについて話し合っています。ご家族、本人とも話し合う機会を作っています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人、ご家族を訪れ話し合ったり、見学時に他利用者と接して頂いたりしながら、入居する前から顔見知りの関係を作れるように工夫しています。サービス開始当初はホームに慣れていただくために、スタッフがフォローしたり、ご家族に連携を依頼するなどしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の主人公は本人であることは、理念作りやスタッフ会議を通してスタッフ同士で確認しあっています。職員も利用者の生活と同じ環境で食事をしたり買い物に行ったり喜怒哀楽を共有しています。職員会議を利用し、本人の要望や助言を運営に反映させ、職員と利用者が同じ目的が持てるように努めています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	電話、手紙、報告書などの形で連絡を取り合いながら信頼関係を築いています。「本人の為」という共通の目的をもって、どういった支援が必要なのかを一緒に考えています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前から情報収集に努め、入居後もご家族と細やかに連携をとっています。本人の気持ちを代弁しご家族に伝える事もあります。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実際に馴染みの人に会ったり、馴染みの場所に行くことは難しい場合がほとんどですが、可能な限り電話や手紙のやり取りが出来るような支援をしています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	身体状況や認知症状を含めて利用者同士が関わり、支えあい、助け合っている環境です。助け合える環境を作る為に、職員が声掛けをしたり、空間環境を整備するなどしてまいります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現状では契約終了後も関係性を継続しているご家族の方はいらっしゃいませんが、ご要望があれば積極的に対応していきたいです。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉だけでなく、行動や感情で表現する意向、過去の経緯から知る意向等を情報として集めカンファレンス、会議、申し送りで検討しています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に実態調査を行っています。聞き取りがすぐできない家庭は、入居後信頼関係を作り、情報収集しています。必要時は、ご家族に了承を得て関係機関に連絡して過去の経緯を確認しています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	安全管理しながら自由に生活して頂きその中で本人の状態把握に努めています。生活記録やバイタルチェック表を利用し情報を共有しています。カンファレンス、会議、申し送り等で日勤帯、夜勤帯の様子の情報を集めて状態把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活を快適にする為必要な事項を職員、本人、ご家族、関係機関を含めて検討し介護計画を作成しています。カンファレンスを3ヶ月に一回実施し、アセスメントを通してそれぞれのご利用者様に合ったケアプラン作りに取り組んでいます。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンス、会議、申し送りで情報を共有し状況把握に努めています。必要な時は個別に職員から情報取りをしています。記録の中から新しい情報を介護計画に反映させていきます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録は、様子がわかるものをより具体的に記入し、日々の新しい情報として介護計画の見直しに生かしています。心理面では、生活全般の情報や状況を参考にしてカンファレンス等で検討しながら介護計画に反映させています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	非常勤の看護師を配置し介護と医療の連携が取れるように努めています。医療機関(内科、歯科)、薬局、と居宅療養管理指導を結び安心して生活できる様に努めています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア、教育機関の理解を頂き、認知症の理解を地域に向け情報発信している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近隣の他事業者や他介護サービス事業所と情報交換しながら本人にとって最良のサービスを利用して頂けるよう支援しています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	区の介護保険・生活保護の担当者との交流を行い、利用者様の個別ケースについて相談しています。地域包括センターへは、運営推進会議内で報告、相談を行っています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の了承を得て、主治医とは別に個別の医療機関が定期的に往診しています。主治医と連携しながら適切な支援に取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	24時間対応ダイヤルが設置してあるのでDrからいつでも相談、指導、助言できる体制になっています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員による健康管理をしています。開所から見ていただいているので、ご利用者様や職員との信頼性も深く様々な相談ができる関係となっています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	支援状況を担当関係者やご家族と話し合い本人の不安を和らげ早期に退院できるように努めています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族に重度化した場合の対応を入居時に説明しています。本人、ご家族の意思を尊重し、関係機関の協力を得ながら話し合い、選択してもらえ環境作りをしています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・ご家族の意思を尊重し、関係機関等の協力を得ながら話し合っています。できる事とできない事を提示しながら、最終的な選択をして頂けるような体制作りをしています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係機関担当者で話し合い、本人の不安を和らげより良い支援を受けられる様に情報提供しています。必要時は関係機関担当者、本人、ご家族、事業所職員で事業所内で支援の方向性について話し合っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>適切な接遇、記録をする上で配慮していかなければならない事項について日頃より注意し合っています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>言葉だけではなく行動や感情も本人の意思表示と考え、ご利用者様の自己決定を尊重することについてはスタッフ会議などで確認しあっています。様々な場面で納得していただけるまで何度でも説明するよう努めています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の意向を最大限に尊重する事が最優先業務とし、自己決定を尊重することについてはスタッフ会議などで確認しあっている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>不適切な身だしなみになってはいないか、注意してご利用者様を見守りしています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備・片付けはご利用者様に役割を持って頂くいい機会となるので、積極的にご参加して頂いています。またイベント時などにご利用者のリクエストに応えていけるようなメニューを一緒に作ったり、外食に行ったりするなどして要望に対応しています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>入居以前の趣味・嗜好を継続して頂けるような支援をしていきたいと考えています。健康管理上に制限が無い場合は、かかりつけ医と相談しながら出来るだけ継続して頂いています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、それぞれのご利用者さまの排泄パターンの把握に努めています。排泄パターンをもとにトイレ誘導・声掛けするなどして、排泄の失敗を防ぐことができるよう支援しています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜勤帯の勤務時間は安全の面から入浴援助が出来ませんが、その時間帯以外はできるだけ本人の希望に添えるよう可能な限り勤務時間の調整をしています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣や現状に合わせ、家族や関係者と話し合い検討し総合的に判断しています。可能な限り本人の生活習慣や意向を優先しています。他利用者に影響が見られる場合でも職員の対応や環境を作ることで影響が出ない様に配慮しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ひとりひとりに役割を持って頂けるよう支援しています。ご自分からの意思表示が難しい方についてもご家族、関係機関、入居前のサービス事業所等から情報収集して職員側から提案していけるよう援助しています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお小遣いはお預かりして管理していますが、要望に応じてご自分である程度お金の管理をお任せしているご利用者様もいらっしゃいます。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日お散歩へ行って頂けるよう支援しています。買物や外出行事を企画して機会を作っています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別の外出や外泊はご家族に説明して外出や外泊する機会を作ってもらえる様に支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自らかけて頂けるよう支援しています。手紙についても希望に添えるよう援助しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族・知人の訪問にはいつでも居心地良く過ごしていただけるような雰囲気作りをしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	意識的に身体拘束をしない事、無意識でも身体拘束にみなされる行為や環境を作らない事を職員全体で意識し取り組んでいます。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上必要と思われる施錠をしている扉もありますが、ご利用者の希望があればいつでも開けるように支援しています。施錠することで生活空間が制限される事を理解し、会議等で情報の共有をしています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーに配慮しながら安全確認しています。職員の人数が限られている時は、全体が把握できる位置で利用者の行動を予測し安全管理に努めています。行動予測が出来る様にカンファレンス、会議で情報を共有しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険性のあるものだからといってすぐに管理・保管するのではなく、自立度に応じて対応しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を作成し、事故分析を行っています。社内にも安全対策委員会が設置しており、他事業所における事故や勉強会が行われているので参加しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを作成・掲示しており、医療従事者と24時間体制で連携がとれる体制を作っています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難経路を掲示し、防災訓練を年に2回実施しています。		地域に協力を得られるよう働きかけたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	予測されるリスクについては毎月のお手紙や電話または面会に来られた際などに説明しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の口頭での申し送り、記録での確認、報告連絡相談、を毎日徹底し、職員間の情報共有、関係機関への情報伝達、異変時等の対応が迅速に行える様に努めています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医、薬剤師と連携しながら薬の目的・用法について理解に勤めます。個別の一覧表があり確認できる体制を作っています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や運動する機会を作る支援をしています。必要に応じてかかりつけ医に相談しながら服薬の面からも支援しています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアの援助をしています。また週に一回歯科衛生士による訪問診療があります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養価はメニュー表で把握しています。食事形態、食事量、水分量の把握も出来ています。状態や習慣も含め必要時は食事量、水分量をご家族、協力医療機関等に報告し話し合い評価、検討しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する研修が入社時に行われています。外出から戻られたときは手洗い・うがいを励行しています。流行の感染症に対し必要時は関係機関に相談したり行政からの予防指導等を実践しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生マニュアルがありマニュアルに沿って対応しています。食材の管理についても関係機関と共同し保管管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場からも生活環境が見えるように中庭に椅子を設置しています。玄関周りの清掃を定期的に行っており、夜間時も出入りがしやすい様にセンサー付の外灯を設置しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り付けは、季節感に合った飾り付けや季節の草花の飾りをしています。外気温との差が極端に大きくならない空調になるよう配慮しています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置を工夫して、気のあったご利用者様同士と一緒に過ごせるように配慮しています。またお一人で過ごせるような空間もありますので、思い思いの過ごし方が出来るようになっていきます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族や本人と相談して、使い慣れた家具や好みの家具を使用したり、本人の好みの居室を提供しています。どの居室に入居するかを生活習慣に合わせてご家族や本人と相談しています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室の換気は定期的に行っています。個人の感覚も尊重しますが、あまりご本人任せにせずに適正と思われる温度調節をしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活しやすい様な動線になるよう工夫しています。プライベートな空間にはコールボタンを設置しています。必要時には使用出来る様に予備用の車椅子を準備しています。本人と相談し個別に居室の家具の配置を変えるなど安全に生活しやすい環境作りに努めています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	それぞれの居室の位置をわかりやすくするためにのれんや飾りつけなどの工夫をしています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りは主に草花のお世話が好きなご利用者様のために花壇づくりのスペースとして活用しています。また洗濯物や布団を干したり自由に行える環境作りをしています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

出来る限りホームに入居されるまでの生活を継続して頂けるようご利用者様本人や、御家族様からの要望にも耳を傾け、スタッフ一丸となって日夜頑張っております。タバコやビールといった嗜好品もかかりつけ医と相談しながら継続していただいております。裁縫などの趣味も出来るだけ継続して頂けるよう支援しております。ユニットごとにご利用者様の希望に沿ったイベント作りに取り組んでいます。足腰が丈夫な方の多いユニットでは果物狩り、さつまいも掘りなどの外での行事に力を入れています。ホームの周辺はとても緑が多く、周辺に広がる資源を活かしてイベントを企画しています。お誕生日会や外出、一緒に料理をするイベントなど豊かな生活を送って頂けるように様々なイベントを提案しています。また歩行運動や体操といったADLを維持するためのレクリエーションにも力を入れて取り組んでおります。活き活きとしたホームにするためにはやはり働くスタッフが元気にやりがいを持って介護に取り組んでいけるホームであることが欠かせないと思います。コミュニケーションを大切にして介護のプロとしてやりがいを持って楽しく働いていけるようなホーム作りを目指し頑張っております。